



C コマンド

この章では、コマンド名が C で始まる Cisco Nexus 1000V コマンドについて説明します。

cache size

NetFlow フロー モニタのキャッシュ サイズを指定するには、**cache size** コマンドを使用します。フロー モニタのキャッシュ サイズを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cache size *value*

no cache size *value*

構文の説明	<i>value</i> サイズをエン트리数で指定します。指定できる範囲は 256 ~ 16384 エントリーです。				
デフォルト	4096 エントリー				
コマンドモード	NetFlow モニタ コンフィギュレーション (config-flow-monitor)				
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>4.0(4)SV1(1)</td><td>このコマンドが追加されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。
リリース	変更内容				
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。				
使用上のガイドライン	メモリおよびパフォーマンスに対する NetFlow フロー モニタ キャッシュの影響を制限するには、 cache-size コマンドを使用します。				
例	次に、MonitorTest という名前の NetFlow フロー モニタにキャッシュ サイズを設定した後、設定を表示する例を示します。				

```

n1000v# config t
n1000v(config)# flow monitor MonitorTest
n1000v(config-flow-monitor)# cache size 15000
n1000v(config-flow-monitor)# show flow monitor MonitorTestFlow
Monitor monitorstest:
  Use count: 0
  Inactive timeout: 600
  Active timeout: 1800
  Cache Size: 15000
n1000v(config-flow-monitor)#

```

次に、フロー モニタからキャッシュ サイズを削除する例を示します。

```

n1000v# config t
n1000v(config)# flow monitor MonitorTest
n1000v(config-flow-monitor)# no cache size
n1000v(config-flow-monitor)# show flow monitor MonitorTestFlow
n1000v(config-flow-monitor)#
Monitor monitorstest:
  Use count: 0
  Inactive timeout: 600
  Active timeout: 1800
  Cache Size: 4096
n1000v(config-flow-monitor)#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show flow monitor	フロー モニタのキャッシュ モジュールに関する情報を表示します。
flow monitor	フロー モニタを作成します。
timeout	キャッシュのエージング エントリに対するエージング タイマーとその値を指定します。
record	フロー レコードをフロー モニタに追加します。
exporter	フロー エクスポートをフロー モニタに追加します。

capability iscsi-multipath

iSCSI マルチパス プロトコルでポート プロファイルを使用するよう設定するには、**capability iscsi-multipath** コマンドを使用します。ポート プロファイルから機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

capability iscsi-multipath

no capability iscsi-multipath

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンド モード

ポート プロファイル コンフィギュレーション (config-port-prof)

サポートされるユーザ ロール

ネットワーク 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(2)	capability iscsi multipath コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

iSCSI マルチパスにポート プロファイルを設定する場合は、最初にスイッチポート モードでポート プロファイルを設定する必要があります。

例

次に、iSCSI マルチパス プロトコルでポート プロファイルを使用するよう設定する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# port-profile testprofile
n1000v(config-port-prof)# switchport mode access
n1000v(config-port-prof)# capability iscsi-multipath
n1000v(config-port-prof)#
```

次に、ポート プロファイルから iSCSI マルチパスの設定を削除する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# port-profile testprofile
n1000v(config-port-prof)# no capability iscsi-multipath
n1000v(config-port-prof)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show port-profile name <i>[name]</i>	ポート プロファイルの設定を表示します。
port-profile name	ポート プロファイルを作成および設定するためにポート プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。

capability l3control

ポートプロファイルのレイヤ 3 機能を設定するには、**capability** コマンドを使用します。ポートプロファイルから機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

capability l3control

no capability l3control

構文の説明	l3control	ポートプロファイルを次のレイヤ 3 通信のどちらかで使用するよう設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • VSM と VEM の間のレイヤ 3 通信に使用される管理インターフェイス。 • NetFlow ERSPAN トラフィックの伝送。
--------------	------------------	--

デフォルト	なし
--------------	----

コマンドモード	ポートプロファイル コンフィギュレーション (config-port-prof)
----------------	--

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者
----------------------	-----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	ポートプロファイルをアップリンクとして指定するための capability uplink コマンドが導入されました。
	4.0(4)SV1(2)	capability uplink コマンドが削除されました。アップリンクとして使用されるポートプロファイルは、代わりに「type Ethernet」として指定するようになっています。 capability l3control コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	レイヤ 3 制御用のポートプロファイルを設定する場合は、最初に VSM ドメインに対する svs mode コマンドを使用して、トランスポートモードをレイヤ 3 に設定する必要があります。
-------------------	---

例	次に、ポートプロファイルをレイヤ 3 通信で使用するよう設定する例を示します。
----------	---

```
n1000v# config t
n1000v(config)# port-profile testprofile
n1000v(config-port-prof)# capability l3control
n1000v(config-port-prof)#
```

次に、ポートプロファイルからレイヤ 3 の設定を削除する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# port-profile testprofile
n1000v(config-port-prof)# no capability l3control
```

```
n1000v(config-port-prof)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show port-profile name <i>[name]</i>	ポート プロファイルの設定を表示します。
port-profile name	ポート プロファイルを作成および設定するためにポート プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。

capability vxlan

ポートプロファイルに VXLAN 機能を割り当て、このポートプロファイルを継承するインターフェイスが VXLAN カプセル化トラフィックの送信元として必ず使用されるようにするには、**capability vxlan** コマンドを使用します。VXLAN 機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

capability vxlan

no capability vxlan

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

ポートプロファイル コンフィギュレーション (config-port-prof)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)SV1(5.1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、ポートプロファイル vmnic-pp に VXLAN 機能を割り当てる例を示します。

```
n1000v# configure terminal
n1000v(config)# port-profile vmknic-pp
n1000v(config-port-prof)# capability vxlan
n1000v(config-port-prof)
```

関連コマンド

コマンド	説明
show bridge-domain	ブリッジドメインの情報を表示します。
show interface virtual	仮想インターフェイスに関する情報を表示します。
show running config interface vethernet	vEthernet インターフェイスの実行コンフィギュレーションに関する情報を表示します。
show port-profile usage	すべてのポートプロファイルの使用状況を表示します。

cd

現在作業しているディレクトリから別のディレクトリに変更するには、**cd** コマンドを使用します。

```
cd [filesystem://directory] | directory]
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効なファイル システムは、 bootflash と volatile です。
<i>//directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

デフォルト

bootflash

コマンド モード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

アクティブなスーパーバイザ モジュール上のディレクトリにだけ変更できます。

現在作業しているディレクトリの名前を確認するには、現在の作業ディレクトリ (**pwd**) コマンドを使用します。

例

次に、現在のファイル システム上の別のディレクトリに変更する例を示します。

```
n1000v# cd my-scripts
```

次に、現在作業しているファイル システムから別のファイル システムに変更する例を示します。

```
n1000v# cd volatile:
```

次に、デフォルトのディレクトリである **bootflash** に戻る例を示します。

```
n1000v# cd
```

関連コマンド

コマンド	説明
pwd	現在作業しているディレクトリの名前を表示します。

cdp advertise

アドバタイズする CDP バージョンを指定するには、**cdp advertise** コマンドを使用します。CDP のアドバタイズ設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp advertise {v1 | v2}

no cdp advertise [v1 | v2]

構文の説明	v1	CDP バージョン 1 を指定します。
	v2	CDP バージョン 2 を指定します。

デフォルト CDP バージョン 2

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、アドバタイズするバージョンとして CDP バージョン 1 を設定する例を示します。

```
n1000v(config)# cdp advertise v1
```

次に、アドバタイズする設定から CDP バージョン 1 を削除する例を示します。

```
n1000v(config)# no cdp advertise v1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show cdp global	CDP の設定を表示します。

cdp enable (グローバル)

Cisco Discovery Protocol (CDP) をすべてのインターフェイスとポート チャネルでグローバルにイネーブルにするには、**cdp enable** コマンドを使用します。CDP をグローバルにディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp enable

no cdp enable

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

すべてのインターフェイスとポート チャネルでイネーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

CDP は、物理インターフェイスとポート チャネルにだけ設定できます。

例

次に、CDP をグローバルにイネーブルにしてから CDP の設定を表示する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# cdp enable
n1000v(config)# show cdp global
Global CDP information:
  CDP enabled globally
  Refresh time is 60 seconds
  Hold time is 180 seconds
  CDPv2 advertisements is enabled
  DeviceID TLV in System-Name(Default) Format
```

次に、CDP をグローバルにディセーブルにしてから CDP の設定を表示する例を示します。

```
n1000v(config)# no cdp enable
n1000v# show cdp global
Global CDP information:
  CDP disabled globally
  Refresh time is 60 seconds
  Hold time is 180 seconds
  CDPv2 advertisements is enabled
  DeviceID TLV in System-Name(Default) Format
n1000v(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cdp global	CDP の設定を表示します。
cdp enable (インターフェイスまたはポートチャンネル)	特定のインターフェイスまたはポートチャンネルで CDP をイネーブルにします。

cdp enable (インターフェイスまたはポート チャネル)

Cisco Discovery Protocol (CDP) を特定のインターフェイスまたはポート チャネルでイネーブルにするには、**cdp enable** コマンドを使用します。CDP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp enable

no cdp enable

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

CDP は、物理インターフェイスとポート チャネルにだけ設定できます。

例

ポート チャネル 2 で CDP をイネーブルにする例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# interface port-channel2
n1000v(config-if)# cdp enable
n1000v(config-if)#
```

次に、mgmt0 上で CDP をディセーブルにする例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# interface mgmt0
n1000v(config-if)# no cdp enable
n1000v(config-if)# show cdp interface mgmt0
    mgmt0 is up
    CDP disabled on interface
    Sending CDP packets every 60 seconds
    Holdtime is 180 seconds
n1000v(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cdp interface	インターフェイスの CDP の設定を表示します。
show cdp neighbors	アップストリーム デバイスから自デバイスを表示します。
cdp advertise	インターフェイスがアドバタイズする CDP バージョン (CDP バージョン 1 または CDP バージョン 2) を割り当てます。
cdp format device ID	CDP にデバイス ID を割り当てます。
cdp holdtime	CDP がネイバー情報を保持する最大時間を設定します。この時間が経過するとネイバー情報は破棄されます。

cdp format device-id

CDP のデバイス ID の形式を指定するには、**cdp format device-id** コマンドを使用します。これを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp format device-id {mac-address | serial-number | system-name}

no cdp format device-id {mac-address | serial-number | system-name}

構文の説明

mac-address	シャーシの MAC アドレスを指定します。
serial-number	シャーシのシリアル番号を指定します。
system-name	システム名/完全修飾ドメイン名を指定します (デフォルト)。

デフォルト

システム名/完全修飾ドメイン名

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デバイス ID の形式を設定する前に、CDP をグローバルにイネーブルにする必要があります。CDP を設定できるのは、物理インターフェイスおよびポート チャネル上に限られます。

例

次に、MAC アドレス形式の CDP デバイス ID を設定してから、設定を表示する例を示します。

```
n1000v(config)# cdp format device-id mac-address
n1000v(config)# show cdp global
Global CDP information:
CDP enabled globally
  Sending CDP packets every 5 seconds
  Sending a holdtime value of 10 seconds
  Sending CDPv2 advertisements is disabled
  Sending DeviceID TLV in Mac Address Format
```

次に、MAC アドレス形式の CDP デバイス ID を設定から削除する例を示します。

```
n1000v(config)# no cdp format device-id mac-address
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cdp global	CDP のグローバル コンフィギュレーション パラメータを表示します。
show cdp interface	インターフェイスの CDP の設定を表示します。
show cdp neighbors	アップストリーム デバイスから自デバイスを表示します。
cdp advertise	インターフェイスがアドバタイズする CDP バージョン (CDP バージョン 1 または CDP バージョン 2) を割り当てます。
cdp enable interface	特定のインターフェイスまたはポート チャネルで CDP をイネーブルにします。
cdp holdtime	CDP がネイバー情報を保持する最大時間を設定します。この時間が経過するとネイバー情報は破棄されます。

cdp holdtime

CDP がネイバー情報を保持する最大時間を設定するには、**cdp holdtime** コマンドを使用します。この時間が経過するとネイバー情報は破棄されます。CDP のホールドタイム設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp holdtime seconds

no cdp holdtime seconds

構文の説明

seconds 範囲は 10 ～ 255 秒です。

デフォルト

180 秒

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デバイス ID の形式を設定する前に、CDP をグローバルにイネーブルにする必要があります。CDP を設定できるのは、物理インターフェイスおよびポート チャネル上に限られます。

例

次に、CDP のホールドタイムを 10 秒に設定する例を示します。

```
n1000v(config)# cdp holdtime 10
```

次に、CDP のホールドタイム設定を削除する例を示します。

```
n1000v(config)# no cdp holdtime 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cdp global	CDP のグローバル コンフィギュレーション パラメータを表示します。
show cdp neighbors	ユーザ デバイスからアップストリーム デバイスを表示します。

cdp timer

ネイバーにアドバタイズメントを送信するための CDP のリフレッシュ時間を設定するには、**cdp timer** コマンドを使用します。CDP のタイマー設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp timer seconds

no cdp timer seconds

構文の説明

seconds 範囲は 5 ~ 254 秒です。

デフォルト

60 秒

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、CDP のタイマーを 10 秒に設定する例を示します。

```
n1000v(config)# cdp timer 10
```

次に、CDP のタイマー設定を削除する例を示します。

```
n1000v(config)# no cdp timer 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cdp global	CDP のグローバル コンフィギュレーション パラメータを表示します。
show cdp neighbors	ユーザ デバイスからアップストリーム デバイスを表示します。

channel-group auto (ポート プロファイル)

ポート プロファイルに属するすべてのインターフェイスに対するチャンネル グループを作成および定義するには、**channel-group auto** コマンドを使用します。チャンネル グループを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
channel-group auto [mode channel_mode] [sub-group sg-type{cdp | manual}]
[mac-pinning]
```

```
no channel-group
```

構文の説明

mode <i>channel_mode</i>	(任意) チャネリング モードを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • on • active (LACP を使用) • passive (LACP を使用)
sub-group <i>sg-type</i>	(任意) ポート プロファイルが複数のアップストリーム スイッチに接続する場合にトラフィック フローを管理するためのサブグループを作成することを指定します。この機能は、仮想ポート チャンネル ホスト モード (vPC-HM) とも呼ばれます。
cdp	Cisco Discovery Protocol (CDP) を使用してサブグループを作成することを指定します。
manual	手動でサブグループを作成することを指定します。
mac-pinning	(任意) ポート チャンネルをサポートしないアップストリーム スイッチに VEM を接続することを指定します。ポート チャンネルごとのサブグループの最大数は 32 のので、最大で 32 のイーサネット ポート メンバーを割り当てることができます。

デフォルト

なし

コマンド モード

ポート プロファイル コンフィギュレーション (config-port-prof)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。
4.0(4)SV1(2)	サブグループの手動作成および mac-pinning がサポートされました。

使用上のガイドライン

channel-group auto コマンドは、同じモジュールに属するすべてのインターフェイスに対して一意のポート チャンネルを作成します。ポート プロファイルが最初のインターフェイスに割り当てられると、チャンネル グループが自動的に割り当てられます。同じモジュールに属する追加インターフェイスは、それぞれ同じポート チャンネルに追加されます。VMware 環境では、各モジュールに対して異なるポート チャンネルが作成されます。

- vPC-HM を設定する場合は、チャンネル グループ モードを **on** に設定する必要があります。
- 複数のアップストリーム スイッチに接続するポート プロファイルに対するポート チャンネルを設定するときは、次のことに注意してください。
 - アップストリーム スイッチで CDP が設定されているかどうかを確認する必要があります。
設定されている場合は、CDP によってアップストリーム スイッチごとにサブグループが作成され、トラフィックが個別に管理されます。
CDP が設定されていない場合は、サブグループを手動で設定して、個別のスイッチ上のトラフィック フローを管理する必要があります。
 - vPC-HM に対するポート チャンネルを設定していて、アップストリーム スイッチがポート チャンネルをサポートしていない場合は、MAC ピニングを使用できます。この機能は、各イーサネット メンバー ポートを一意のサブグループに自動的に割り当てます。
 - 複数のポート チャンネルが 2 つの異なるアップストリーム スイッチに接続するときに vPC-HM が設定されていない場合、Cisco Nexus 1000V の背後の VM は、ブロードキャストおよびマルチキャスト ネットワークから重複するパケットを受信します。
 - インターフェイスで vPC-HM を設定することもできます。詳細については、『Cisco Nexus 1000V Interface Configuration Guide, Release 4.2(1)SV1(5.1)』を参照してください。

例

次に、単一のアップストリーム スイッチに接続するポート チャンネルのポート プロファイルを設定した後、設定を表示する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# port-profile AccessProf
n1000v(config-port-prof)# channel-group auto mode on
n1000v(config-port-prof)# show port-profile name AccessProf
port-profile AccessProf
  description: allaccess4
  status: disabled
  capability uplink: yes
  port-group: AccessProf
  config attributes:
    switchport mode access
    channel-group auto mode on
  evaluated config attributes:
    switchport mode access
    channel-group auto mode on
  assigned interfaces:
n1000v(config-port-prof)#
```

次に、ポート プロファイルからチャンネル グループを削除した後、設定を表示する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# port-profile AccessProf
n1000v(config-port-prof)# no channel-group
n1000v(config-port-prof)# show port-profile name AccessProf
port-profile AccessProf
  description: allaccess4
  status: disabled
  capability uplink: yes
  port-group: AccessProf
  config attributes:
    switchport mode access
  evaluated config attributes:
    switchport mode access
```

■ channel-group auto (ポート プロファイル)

```
assigned interfaces:
n1000v(config-port-prof)#
```

次に、CDP がイネーブルになっている複数のアップストリーム スイッチに接続するポート チャネルのポート プロファイルを設定した後、設定を表示する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# port-profile uplinkProf
n1000v(config-port-prof)# channel-group auto mode on sub-group cdp
n1000v(config-port-prof)# show port-profile name uplinkProf
port-profile uplinkProf
  description:
  type: vethernet
  status: disabled
  capability l3control: no
  pinning control-vlan: -
  pinning packet-vlan: -
  system vlans: none
  port-group:
  max ports: 32
  inherit:
  config attributes:
    channel-group auto mode on sub-group cdp
  evaluated config attributes:
    channel-group auto mode on sub-group cdp
  assigned interfaces:
```

関連コマンド

コマンド	説明
show port-profile <i>name profile-name</i>	ポート プロファイルの設定を表示します。
port-profile <i>profile-name</i>	ポート プロファイルを作成し、指定したポート プロファイルのグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

channel-group (インターフェイス)

ポート チャネル グループを作成する、またはポート チャネル グループ間でインターフェイスを移動するには、**channel-group** コマンドを使用します。インターフェイスからチャネル グループの設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

channel-group *number* [**force**] [**mode** {**active** | **on** | **passive**}]

no channel-group [*number*]

構文の説明

number	チャネル グループの番号 設定できるポート チャネルの最大数は 256 です。割り当てることのできるチャネル グループ番号の範囲は 1 ~ 4096 です。
force	インターフェイスをチャネル グループに加入させます。ただし、一部のパラメータは互換性がありません。互換性パラメータおよび強制できるパラメータについては、下記の「使用上のガイドライン」を参照してください。
mode	インターフェイスのポート チャネル モードを指定します。
on	デフォルトのチャネル モードです。 LACP を実行していないすべてのポート チャネルは、このモードになります。LACP をイネーブルにする前にチャネル モードを active または passive に変更しようとする、デバイスがエラー メッセージを返します。 LACP をグローバルにイネーブルにしてから、チャネル モードを active または passive に設定することで各チャネルの LACP をイネーブルにします。このモードのインターフェイスでは、LACP パケットの開始も応答も行われません。LACP は、 on ステートのインターフェイスとネゴシエートする場合、LACP パケットを受信しないため、そのインターフェイスと個別のリンクを形成します。そのため、チャネル グループには参加しません。
active	このコマンドを指定すると、ユーザが Link Aggregation Control Protocol (LACP) をイネーブルにしたときに、特定のインターフェイスの LACP がイネーブルになります。インターフェイスはアクティブ ネゴシエーション状態です。ポートは、LACP パケットを送信して、他のポートとのネゴシエーションを開始します。
passive	LACP をイネーブルにすると、LACP デバイスが検出されたときだけ LACP がイネーブルにされるよう指定します。インターフェイスはパッシブ ネゴシエーション状態で、ポートは受信された LACP パケットに応答しますが、LACP ネゴシエーションは開始しません。

デフォルト

デフォルト モードは **on** です。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

サポートされるユーザ ロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

on チャネル モードのポート チャネルは純粋なポート チャネルであり、最大 8 つのポートを集約できません。このポート チャネルでは LACP は実行されません。

既存のポート チャネルが LACP を実行していない場合、ポート チャネルまたはそのインターフェイスのモードは変更できません。変更しようとする、チャネル モードは **on** のままになり、エラー メッセージが生成されます。

ポート チャネルから最後の物理インターフェイスを削除しても、そのポート チャネルは削除されません。ポート チャネルを完全に削除するには、**port-channel** コマンドの **no** 形式を使用します。

インターフェイスがポート チャネルに参加する場合、次の属性が削除されて、ポート チャネルの属性に置き換えられます。

- 帯域幅
- 遅延
- UDP の拡張認証プロトコル
- VRF
- IP アドレス
- MAC アドレス
- STP
- NAC
- サービス ポリシー
- Quality of Service (QoS)
- ACL

次の属性は、インターフェイスがポート チャネルに参加したり、ポート チャネルから脱退した場合も変化しません。

- ビーコン
- 説明
- CDP
- LACP ポート プライオリティ
- デバウンス
- UDLD
- MDIX
- レート モード
- シャットダウン
- SNMP トラップ

物理インターフェイスをチャネル グループに割り当てる前に、ポート チャネル インターフェイスを作成する必要はありません。チャネル グループが最初の物理インターフェイスを取得するときに、ポート チャネル インターフェイスがまだ作成されていない場合は自動的に作成されます。

例

次に、インターフェイスを active モードで LACP チャンネル グループ 5 に追加する例を示します。

```
n1000v(config-if) # channel-group 5 mode active
n1000v(config-if) #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface port-channel	指定のポート チャンネル インターフェイスのトラフィックに関する情報を表示します。
show port-channel summary	ポート チャンネルに関する情報を表示します。
feature lacp	LACP 機能をグローバルにイネーブルにします。
show lacp port-channel	LACP 情報を表示します。
show port-channel compatibility-parameters	Cisco Nexus 1000V が使用する互換性チェックのリストを表示します。

class (QoS タイプのポリシー マップ)

既存の QoS (Quality of Service) クラスをポリシー マップに追加するには、**class** コマンドを使用します。ポリシー マップから QoS クラスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
class [type qos] {class-map-name | class-default} [insert-before [type qos]
before-class-map-name]
```

```
no class {class-map-name | class-default}
```

構文の説明

type qos	(任意) クラス タイプとして QoS を指定します。QoS がデフォルトのクラス タイプです。
<i>class-map-name</i>	指定した既存クラスの名前をポリシー マップに追加します。
class-default	class-default をポリシー マップに追加します。 class-default は、他のクラスに分類されないすべてのトラフィックに一致します。
insert-before <i>before-class-map-name</i>	(任意) 後続のクラス マップを示すことで、ポリシー内でのこのクラスの順序を指定します。指定しないと、このクラスはポリシー内のクラスのリストの最後に配置されます。トラフィック タイプと最初に一致したクラスに基づいて、ポリシーのアクションが実行されます。

デフォルト

type QoS

デフォルトでは、新しいクラス マップはポリシー マップの最後に参照されます。

class-default という名前のクラスは、他のクラスに分類されないすべてのトラフィックに一致します。

コマンド モード

ポリシー マップ コンフィギュレーション (config-pmap)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

トラフィック タイプと最初に一致したクラスに基づいて、ポリシーのアクションが実行されます。

class-default という名前のクラスは、他のクラスに分類されないすべてのトラフィックに一致します。

例

次に、クラス マップをポリシー マップの最後に追加する例を示します。

```
n1000v(config)# policy-map my_policy1
n1000v(config-pmap)# class traffic_class2
n1000v(config-pmap-c-qos)#
```

次に、クラス マップをポリシー マップ内の既存のクラス マップの前に挿入する例を示します。

```
n1000v(config)# policy-map my_policy1
n1000v(config-pmap-qos)# class insert-before traffic_class2 traffic_class1
n1000v(config-pmap-c-qos)#
```

次に、class-default クラス マップをポリシー マップに追加する例を示します。

```
n1000v(config)# policy-map my_policy1
n1000v(config-pmap-qos)# class class-default
n1000v(config-pmap-c-qos)#
```

次に、参照クラス マップをポリシー マップから削除する例を示します。

```
n1000v(config)# policy-map my_policy1
n1000v(config-pmap)# no class traffic_class1
n1000v(config-pmap)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
policy-map	ポリシー マップを作成、または変更します。
set cos	CoS を QoS ポリシー マップに割り当てます。
set dscp	DSCP 値を QoS ポリシー マップ内のトラフィック クラスに割り当てます。
set precedence	QoS ポリシー マップ内の特定のトラフィック クラスに IP ヘッダーのプレシデンス値を割り当てます。
set discard-class	QoS ポリシー マップ内のトラフィック クラスに廃棄クラス値を割り当てます。
show class-map qos	クラス マップを表示します。
show policy-map	ポリシー マップと統計情報を表示します。

class-map

トラフィックのクラスを定義する QoS クラス マップを作成または変更するには、**class-map** コマンドを使用します。クラス マップを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

class-map [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-map-name*

no class-map [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-map-name*

構文の説明

type qos	(任意) クラス マップに対してコンポーネントタイプ QoS を指定します。デフォルトでは、クラス マップ タイプは QoS です。
match-any	(任意) 指定すると、このクラス マップに設定されているマッチング条件のいずれかとパケットが一致する場合は、このクラス マップをそのパケットに適用します。
match-all	(任意) 指定すると、このクラス マップに設定されているマッチング条件のすべてとパケットが一致する場合は、このクラス マップをそのパケットに適用します。 match-any が指定されていない場合、これがデフォルトのアクションです。
<i>class-map-name</i>	クラス マップに割り当てられた名前。 class-default という名前は予約されています。

デフォルト

type QoS
match-all

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

クラス マップ名ではハイフン、アンダースコア、およびアルファベット文字を使用できます。クラス マップ名は 40 文字以下です。クラス マップ名では大文字と小文字が区別されます。

例

次に、クラス マップを作成し、指定したマップを設定するために QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
n1000v# configure terminal
n1000v(config)# class-map my_class1
n1000v(config-cmap-qos)#
```

次に、*my_class1* という名前の QoS クラス マップを削除する例を示します。

```
n1000v(config)# no class-map my_class1  
n1000v(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show class-map qos	クラス マップを表示します。
match class-map	別のクラス マップ内の一致基準に基づいてパケットを照合することによって、トラフィック クラスを設定します。
match packet length	パケット長に基づいてパケットを照合するトラフィック クラスを設定します。

class-map type queuing

キューイング タイプ クラス マップを修正し、クラス マップ コンフィギュレーション モードを開始するには、**class-map type queuing** コマンドを使用します。

class-map type queuing {**match-any** | **match-all**} *queuing-class-map-name*

構文の説明

match-any	指定すると、このクラス マップに設定されている一致条件のいずれかとパケットが一致する場合は、このクラス マップをそのパケットに適用します。
match-all	指定すると、このクラス マップに設定されている一致条件のすべてとパケットが一致する場合は、このクラス マップをそのパケットに適用します。 match-any が指定されていない場合、これがデフォルトのアクションです。
<i>queuing-class-map-name</i>	クラス マップに割り当てられた名前。 class-default という名前は予約されています。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)SV1(4)	このコマンドが追加されました。

例

次に、キューイング クラス マップを修正する例を示します。

```
n1000v(config)# class-map type queuing match-any myclass
n1000v(config-cmap-que)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show class-map type queuing	クラス マップを表示します。
match cos	別のクラス マップ内の一致基準に基づいてパケットを照合することによって、トラフィック クラスを設定します。
match protocol	プロトコルに基づいてマッチング条件を設定します。

clear access-list counters

IP および MAC アクセス コントロール リスト (ACL) のカウンタを消去するには、**clear access-list counters** コマンドを使用します。

clear access-list counters [*access-list-name*]

構文の説明	<i>access-list-name</i> (任意) デバイスはそのカウンタをクリアする ACL の名前。名前では最大 64 文字までの英数字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。
--------------	--

デフォルト	なし
--------------	----

コマンドモード	任意
----------------	----

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者
----------------------	-----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	ACL を指定する場合、名前は 64 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。
-------------------	--

例	次に、すべての IP および MAC ACL のカウンタを消去する例を示します。
----------	--

```
n1000v# clear access-list counters
n1000v#
```

次に、acl-ip-01 という名前の IP ACL のカウンタを消去する例を示します。

```
n1000v# clear access-list counters acl-ip-01
n1000v#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clear ip access-list counters	IP ACL のカウンタを消去します。
	clear mac access-list counters	MAC ACL のカウンタをクリアします。
	show access-lists	1 つまたはすべての IP および MAC ACL に関する情報を表示します。

clear cdp

インターフェイスの Cisco Discovery Protocol (CDP) 情報をクリアするには、**clear cdp** コマンドを使用します。

```
clear cdp {counters [interface slot/port] | table [interface slot/port]}
```

構文の説明

counters	すべてのインターフェイスの CDP カウンタを消去します。
interface slot/port	(任意) 指定したインターフェイスの CDP カウンタを消去します。
table	すべてのインターフェイスの CDP キャッシュを消去します。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
ネットワーク オペレータ

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、すべてのインターフェイスの CDP カウンタを消去する例を示します。

```
n1000V# clear cdp counters
```

次に、すべてのインターフェイスの CDP キャッシュを消去する例を示します。

```
n1000V# clear cdp table
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cdp all	CDP がイネーブルになっているすべてのインターフェイスを表示します。
show cdp entry	CDP データベース エントリを表示します。
show cdp global	CDP グローバル パラメータを表示します。
show cdp interface interface-type slot-port	CDP インターフェイスのステータスを表示します。

clear cli history

CLI で入力したコマンドの履歴を消去するには、**clear cli history** コマンドを使用します。

clear cli history

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コマンドライン インターフェイス (CLI) で入力したコマンドの履歴を表示するには、**show cli history** コマンドを使用します。

例

次に、コマンドの履歴をクリアする例を示します。

```
n1000v# clear cli history
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cli history	コマンドの履歴を表示します。

clear cores

コア ファイルをクリアするには、**clear cores** コマンドを使用します。

clear cores [archive]

構文の説明	archive	(任意) logflash ファイル システムのコア ファイルを消去します。
-------	----------------	--

デフォルト	なし
-------	----

コマンド モード	任意
----------	----

サポートされるユーザ ロール	ネットワーク 管理者
----------------	------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	コア ファイルに関する情報を表示するには、 show system cores コマンドを使用します。
------------	--

例	次に、コア ファイルをクリアする例を示します。
---	-------------------------

```
n1000v# clear cores
```

次に、logflash ファイル システムのコアをクリアする例を示します。

```
n1000v# clear cores archive
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show system cores	コア ファイル名を表示します。
	system cores	コア ファイル名を設定します。

clear counters

インターフェイス カウンタを消去するには、**clear counters** コマンドを使用します。

clear counters [interface {all | ethernet *slot/port* | loopback *virtual-interface-number* | mgmt | port-channel *port-channel-number* | vethernet *interface-number*}]

構文の説明

interface	インターフェイス カウンタをクリアします。
all	すべてのインターフェイス カウンタを消去します。
ethernet <i>slot/port</i>	イーサネット インターフェイス カウンタを消去します。指定できる範囲は 1 ~ 66 です。
loopback <i>virtual-interface-number</i>	ループバック インターフェイス カウンタを消去します。指定できる範囲は 0 ~ 1023 です。
mgmt	管理インターフェイス (mgmt0) を消去します。
port-channel <i>port-channel-number</i>	ポートチャネル インターフェイスを消去します。指定できる範囲は 1 ~ 4096 です。
vethernet <i>interface-number</i>	仮想イーサネット インターフェイスをクリアします。指定できる範囲は 1 ~ 1048575 です。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
ネットワーク オペレータ

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、イーサネット インターフェイス カウンタを消去する例を示します。

```
n1000v(config)# clear counters ethernet 2/1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface counters	インターフェイス ステータスを表示します。カウンタもあわせて表示します。

clear debug-logfile

デバッグ ログファイルの内容を消去するには、**clear debug-logfile** コマンドを使用します。

clear debug-logfile *filename*

構文の説明	<i>filename</i>	消去するデバッグ ログファイルの名前。
-------	-----------------	---------------------

デフォルト	なし
-------	----

コマンドモード	任意
---------	----

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者
---------------	-----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例	次に、デバッグ ログファイルを消去する例を示します。 n1000v# clear debug-logfile syslogd_debugs
---	---

関連コマンド	コマンド	説明
	debug logfile	デバッグをロギングするファイルが設定されます。
	debug logging	デバッグのロギングをイネーブルにします。
	show debug logfile	デバッグ ログファイルの内容が表示されます。

clear flow exporter

Flexible NetFlow フロー エクスポートの統計情報を消去するには、**clear flow exporter** コマンドを任意のコマンドモードで使します。

```
clear flow exporter {name exporter-name | exporter-name}
```

構文の説明

name	フロー エクスポートを名前指定することを示します。
<i>exporter-name</i>	既存のフロー エクスポートの名前

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

clear flow exporter コマンドを使用するには、事前に、エクスポートを使用して Flexible NetFlow によるトラフィック モニタリングをイネーブルしておく必要があります。

例

次に、NFC-DC-PHOENIX という名前のフロー エクスポートの統計情報を消去する例を示します。

```
n1000v# clear flow exporter name NFC-DC-PHOENIX
n1000v#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear flow exporter	エクスポートの統計情報をクリアします。
flow exporter	フロー エクスポートを作成します。
show flow exporter	フロー エクスポートのステータスと統計情報を表示します。

clear ip access-list counters

IP アクセス コントロール リスト (ACL) のカウンタを消去するには、**clear ip access-list counters** コマンドを使用します。

clear ip access-list counters [*access-list-name*]

構文の説明

access-list-name (任意) カウンタを消去する IP ACL の名前です。名前では最大 64 文字までの英数字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ACL を名前で指定する場合、名前は 64 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。

例

次に、すべての IP ACL のカウンタを消去する例を示します。

```
n1000v# clear ip access-list counters
n1000v#
```

次に、acl-ip-101 という名前の IP ACL のカウンタを消去する例を示します。

```
n1000v# clear ip access-list counters acl-ip-101
n1000v#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear access-list counters	IP および MAC ACL のカウンタを消去します。
clear mac access-list counters	MAC ACL のカウンタをクリアします。
show access-lists	1 つまたはすべての IP および MAC ACL に関する情報を表示します。
show ip access-lists	1 つまたはすべての IP ACL に関する情報を表示します。

clear ip arp inspection statistics vlan

指定の VLAN のダイナミック ARP インスペクション (DAI) 統計情報をクリアするには、**clear ip arp inspection statistics vlan** コマンドを使用します。

clear ip arp inspection statistics vlan *vlan-list*

構文の説明	<i>vlan-list</i>	DAI の統計情報を消去できる VLAN ID の範囲は 1 ~ 4094 です。
デフォルト	なし	
コマンドモード	任意	
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(2)	このコマンドが追加されました。
例	次に、VLAN 2 の DAI 統計情報をクリアする例を示します。 <pre>n1000v# clear ip arp inspection statistics vlan 2 n1000v#</pre> 次に、VLAN 5 ~ 12 の DAI 統計情報をクリアする例を示します。 <pre>n1000v# clear ip arp inspection statistics vlan 5-12 n1000v#</pre> 次に、VLAN 2 および VLAN 5 ~ 12 の DAI 統計情報をクリアする例を示します。 <pre>n1000v# clear ip arp inspection statistics vlan 2,5-12 n1000v#</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	ip arp inspection vlan	VLAN のリストに対する DAI をイネーブルまたはディセーブルにします。
	show ip arp inspection statistics	DAI 統計情報を表示します。

clear ip dhcp snooping binding

DHCP スヌーピング バインディング データベースから動的に追加されたエントリをクリアするには、**clear ip dhcp snooping binding** コマンドを使用します。

```
clear ip dhcp snooping binding [vlan vlan-id mac mac-addr ip ip-addr interface
interface-id]
```

構文の説明

vlan	(任意) クリアする VLAN を指定します。
<i>vlan-id</i>	指定した VLAN の ID。
mac	(任意) この VLAN に関連付けられた MAC アドレスを指定します。
<i>mac-addr</i>	この VLAN に関連付けられた MAC アドレス。
ip	(任意) この VLAN に関連付けられた IP アドレスを指定します。
<i>ip-addr</i>	この VLAN に関連付けられた IP アドレス。
interface	(任意) この VLAN に関連付けられたインターフェイスを指定します。
<i>interface-id</i>	インターフェイスの ID。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
ネットワーク オペレータ

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、DHCP スヌーピング バインディング データベースから動的に追加されたエントリを削除する例を示します。

```
n1000v# clear ip dhcp snooping binding
n1000v#
```

次に、インターフェイスの DHCP スヌーピング バインディング テーブル エントリをクリアする例を示します。

```
n1000v# clear ip dhcp snooping binding vlan 10 mac EEEE.EEEE.EEEE ip 10.10.10.1 interface
vethernet 1
n1000v#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature dhcp	デバイスの DHCP スヌーピング機能をイネーブルにします。
show ip dhcp snooping binding	DHCP スヌーピング バインディング データベースを表示します。
ip dhcp snooping	DHCP スヌーピングをグローバルにイネーブルにします。
ip dhcp snooping vlan	<i>vlan-list</i> で指定する VLAN の DHCP スヌーピングをイネーブルにします。
ip dhcp snooping verify mac-address	DHCP スヌーピングの MAC アドレス検証をイネーブルにします。

clear ip igmp interface statistics

インターフェイスの IGMP 統計情報をクリアするには、**clear ip igmp interface statistics** コマンドを使用します。

clear ip igmp interface statistics [*if-type if-number*]

構文の説明

<i>if-type</i>	(任意) インターフェイス タイプ。詳細については、疑問符 (?) オンライン ヘルプ 機能を使用します。
<i>if-number</i>	(任意) インターフェイス番号。

デフォルト

なし

コマンド モード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク 管理者
ネットワーク オペレータ

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次の例では、インターフェイスの IGMP 統計情報をクリアする方法を示します。

```
n1000v# clear ip igmp interface statistics ethernet 2/1
n1000v#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ip igmp interface	IGMP インターフェイスに関する情報を表示します。

clear ip igmp snooping statistics vlan

VLAN の IGMP スヌーピング統計情報をクリアするには、**clear ip igmp snooping statistics vlan** コマンドを使用します。

```
clear ip igmp snooping statistics vlan {vlan-id | all}
```

構文の説明	vlan-id	VLAN 番号。有効な範囲は 1 ~ 3967 および 4048 ~ 4093 です。
	all	すべての VLAN に適用します。

デフォルト なし

コマンドモード 任意

サポートされるユーザロール
ネットワーク 管理者
ネットワーク オペレータ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次の例では、VLAN 1 の IGMP スヌーピング統計情報をクリアする方法を示します。

```
n1000v# clear ip igmp snooping statistics vlan 1
n1000v#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show ip igmp snooping statistics vlan	VLAN ごとに IGMP スヌーピング統計情報を表示します。

clear lacp counters

Link Aggregation Control Protocol (LACP) グループのすべてのインターフェイスの統計情報を消去するには、**clear lacp counters** コマンドを使用します。

clear lacp counters [**interface port-channel** *channel-number*]

構文の説明

channel-number (任意) LACP ポート チャンネル番号。値の範囲は 1 ~ 4096 です。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

特定のポート チャンネルのカウンタを消去する場合、指定できるポート チャンネル番号は 1 ~ 4096 です。チャンネル番号が指定されていない場合は、すべての LACP ポート グループの LACP カウンタが消去されます。

集約プロトコルをイネーブルにしないでスタティック ポート チャンネル グループのカウンタを消去すると、コマンドは無視されます。

例

次に、すべての LACP カウンタを消去する例を示します。

```
n1000v(config)# clear lacp counters
n1000v(config) #
```

次に、LACP ポート チャンネル グループ 20 のすべての LACP カウンタを消去する例を示します。

```
n1000v(config)# clear lacp counters interface port-channel 20
n1000v(config) #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show lacp counters	LACP の統計情報を表示します。

clear license

VSM からライセンス ファイルをアンインストールする、または永続ライセンスをインストールする前に評価ライセンスをアンインストールするには、**clear license** コマンドを使用します。

clear license *filename*

構文の説明	<i>filename</i>	アンインストールするライセンス ファイルの名前。
デフォルト	なし	
コマンド モード	任意	
サポートされるユーザ ロール	ネットワーク 管理者	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ライセンスが使用中の場合は、そのライセンスをアンインストールできません。ライセンス ファイルをアンインストールする前に、まずすべてのライセンスを VEM から VSM ライセンス プールに転送する必要があります。



注意

サービス中断

VSM からライセンス ファイルをアンインストールすると、VEM 上の vEthernet インターフェイスがサービスから削除され、仮想マシンからそのインターフェイスに流れるトラフィックはドロップされます。このトラフィック フローは、VEM のライセンスを含む新しいライセンス ファイルを追加するまで再開されません。ライセンスのアンインストールによって、vEthernet インターフェイスがシャットダウンされることを、サーバ管理者に通知することを推奨します。

例

次に、VSM から Enterprise.lic ライセンス ファイルを削除する例を示します。

```
n1000v# clear license Enterprise.lic
Clearing license Enterprise.lic:
SERVER this_host ANY
VENDOR cisco

Do you want to continue? (y/n) y
Clearing license ..done
n1000v#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show license	ライセンス情報を表示します。
install license	VSM にライセンス ファイルをインストールします。
svs license transfer src-vem	ソース VEM から別の VEM に、または使用可能なライセンスの VSM プールに、ライセンスを転送します。

clear line

指定した vty のセッションを終了するには、**clear line** コマンドを使用します。

clear line *word*

構文の説明	<i>word</i> vty 名を指定します。				
デフォルト	なし				
コマンドモード	任意				
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 ネットワーク オペレータ				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>4.0(4)SV1(1)</td><td>このコマンドが追加されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。
リリース	変更内容				
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。				
例	次に、指定した vty でのセッションを終了する例を示します。 n1000v(config)# clear line				
関連コマンド	<table><thead><tr><th>コマンド</th><th>説明</th></tr></thead><tbody><tr><td>show users</td><td>アクティブなユーザ セッションを表示します。</td></tr></tbody></table>	コマンド	説明	show users	アクティブなユーザ セッションを表示します。
コマンド	説明				
show users	アクティブなユーザ セッションを表示します。				

clear logging logfile

ログ ファイルからメッセージを消去するには、**clear logging logfile** コマンドを使用します。

clear logging logfile

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンド モード

任意

サポートされるユーザ ロール

Super user

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ロギング ファイルからメッセージをクリアする例を示します。

```
n1000v# clear logging logfile
n1000v#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging logfile	ローカル ログ ファイル内のログを表示します。

clear logging session

現在のロギングセッションを消去するには、**clear logging session** コマンドを使用します。

clear logging session

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

Super user

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、現在のロギングセッションをクリアする例を示します。

```
n1000v# clear logging session
n1000v#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging session	ロギングセッションのステータスを表示します。

clear mac access-list counters

MAC アクセス コントロール リスト (ACL) のカウンタを消去するには、**clear mac access-list counters** コマンドを使用します。

clear mac access-list counters [*access-list-name*]

構文の説明

access-list-name (任意) カウンタを消去する MAC ACL の名前を指定します。名前では最大 64 文字までの英数字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

特定の MAC ACL のカウンタを消去する場合、名前は 64 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。

例

次に、すべての MAC ACL のカウンタをクリアする例を示します。

```
n1000v# clear mac access-list counters
n1000v#
```

次に、acl-mac-0060 という名前の MAC ACL のカウンタをクリアする例を示します。

```
n1000v# clear mac access-list counters acl-mac-0060
n1000v#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear access-list counters	IP および MAC ACL のカウンタを消去します。
clear ip access-list counters	IP ACL のカウンタを消去します。
show access-lists	1 つまたはすべての IP および MAC ACL に関する情報を表示します。
show mac access-lists	1 つまたはすべての MAC ACL に関する情報を表示します。

clear mac address-table dynamic

レイヤ 2 の MAC アドレス テーブルからダイナミック アドレス エントリをクリアするには、**clear mac address-table dynamic** コマンドを使用します。

```
clear mac address-table dynamic [[address mac-addr] [vlan vlan-id] [interface {type slot/port | port-channel number}]
```

構文の説明

address <i>mac-addr</i>	(任意) テーブルから MAC アドレスを削除するように指定します。 XXXX.XXXX.XXXX という形式を使用してください。
vlan <i>vlan-id</i>	(任意) テーブルから MAC アドレスを削除する VLAN を指定します。有効値の範囲は、1 ~ 4094 です。
interface { <i>type slot/port</i> <i>port-channel number</i> }	(任意) インターフェイスを指定します。インターフェイスのタイプとスロット番号とポート番号、またはポートチャネル番号のいずれかを使用します。

デフォルト

なし

コマンド モード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

テーブルからすべてのダイナミック エントリを削除するには、引数を指定せずに、**clear mac address-table dynamic** コマンドを使用します。

テーブルからスタティック MAC アドレスをクリアするには、**no mac address-table static** コマンドを使用します。

オプションを指定しないで **clear mac address-table dynamic** コマンドを入力すると、すべてのダイナミック アドレスが削除されます。アドレスを指定してインターフェイスを指定しないと、すべてのインターフェイスからアドレスが削除されます。インターフェイスだけ指定してアドレスを指定しなかった場合は、指定したインターフェイス上のすべてのアドレスが削除されます。

例

次の例は、すべてのダイナミック レイヤ 2 エントリを MAC アドレス テーブルからクリアする方法を示します。

```
n1000v(config)# clear mac address-table dynamic
n1000v(config) #
```

■ clear mac address-table dynamic

次の例は、ポート 2/20 上の VLAN 20 の MAC アドレス テーブルからすべてのダイナミック レイヤ 2 エントリをクリアします。

```
n1000v(config)# clear mac address-table dynamic vlan 20 interface ethernet 2/20
n1000v(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show mac address-table	MAC アドレス テーブルに関する情報を表示します。

clear ntp statistics

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) の統計情報を消去するには、**clear ntp statistics** コマンドを使用します。

clear ntp statistics {all-peers | io | local | memory}

構文の説明

all-peers	すべての NTP ピアの統計情報を消去します。
io	IO の統計情報を消去します。
local	ローカルの統計情報を消去します。
memory	メモリの統計情報を消去します。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
ネットワーク オペレータ

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、すべての NTP ピアの統計情報をクリアする例を示します。

```
n1000v(config)# clear ntp statistics all-peers
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ntp peers	NTP ピアに関する情報を表示します。

clear port-security

動的に学習されたセキュアな MAC アドレスを消去するには、**clear port-security** コマンドを使用します。

```
clear port-security {dynamic} {interface vethernet veth-number | address address} [vlan
vlan-id]
```

構文の説明

dynamic	動的に学習されたセキュアな MAC アドレスを消去することを指定します。
interface vethernet veth-number	クリアする対象の動的に学習されたセキュア MAC アドレスのインターフェイスを指定します。
address address	消去する単一の MAC アドレスを指定します。 <i>address</i> は MAC アドレスです。
vlan vlan-id	セキュアな MAC アドレスを消去する VLAN を指定します。有効な VLAN ID は、1 ~ 4096 です。

デフォルト

dynamic

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、動的に学習されたセキュアな MAC アドレスを veth1 インターフェイスから削除する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# clear port-security dynamic interface veth 1
```

次に、動的に学習されたセキュア MAC アドレス 0019.D2D0.00AE を削除する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# clear port-security dynamic address 0019.D2D0.00AE
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug port-security	ポートセキュリティのデバッグ情報を提供します。
show port-security	ポートセキュリティに関する情報を表示します。
switchport port-security	レイヤ 2 インターフェイス上のポートセキュリティをイネーブルにします。

clear qos statistics

QoS 統計情報のカウンタを消去するには、**clear qos statistics** コマンドを使用します。

```
clear qos statistics {interface [ethernet type/slot | vethernet number | port-channel
number] } [input type qos | output type qos]
```

構文の説明

interface	(任意) 統計情報を消去する特定のインターフェイスを指定します。
input type qos	(任意) 入力 QoS の統計情報だけ消去します。
output type qos	(任意) 出力 QoS の統計情報だけ消去します。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
ネットワーク オペレータ

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

インターフェイスを指定しないと、すべてのインターフェイスのカウンタが消去されます。

例

次に、すべてのインターフェイスの QoS 統計情報を消去する例を示します。

```
n1000v# clear qos statistics
n1000v#
```

次に、veth2 のすべての入力 QoS 統計情報を消去する例を示します。

```
n1000v# clear qos statistics veth2 input type qos
n1000v#
```

関連コマンド

コマンド	説明
qos statistics	QoS 統計情報をイネーブルまたはディセーブルにします。
show policy-map	すべてのポリシーマップ、または指定したポリシーマップに対するポリシーマップ設定を表示します。

clear ssh hosts

Secure Shell (SSH; セキュア シェル) ホスト セッションを消去するには、**clear ssh hosts** コマンドを使用します。

clear ssh hosts

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンド モード

任意

サポートされるユーザ ロール

ネットワーク 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、すべての SSH ホスト セッションをクリアする例を示します。

```
n1000v# clear ssh hosts
```

関連コマンド

コマンド	説明
ssh server enable	SSH サーバをイネーブルにします。

clear system reset-reason

デバイスのリセット理由履歴をクリアするには、**clear system reset-reason** コマンドを使用します。

clear system reset-reason

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、リセット原因の履歴を消去する例を示します。

```
n1000v# clear system reset-reason
```

関連コマンド

コマンド	説明
show system reset-reason	デバイスのリセット理由履歴を表示します。

clear user

ユーザセッションを消去するには、**clear user** コマンドを使用します。

clear user *user-id*

構文の説明

user-id ユーザ ID

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デバイスで現在のユーザセッションを表示するには、**show users** コマンドを使用します。

例

次に、すべての SSH ホスト セッションをクリアする例を示します。

```
n1000v# clear user user1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show users	ユーザセッション情報を表示します。

cli var name

端末セッションのコマンドライン インターフェイス (CLI) 変数を定義するには、**cli var name** コマンドを使用します。CLI 変数を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cli var name *variable-name* *variable-text*

cli no var name *variable-name*

構文の説明		
<i>variable-name</i>		変数の名前。名前は、最大 31 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別されます。
<i>variable-text</i>		変数のテキスト。テキストは、最大 200 文字の長さの英数字で、スペースを含むことができます。

デフォルト なし

コマンド モード 任意

サポートされるユーザ ロール ネットワーク 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 次の構文を使用して CLI 変数を参照できます。

\$(variable-name)

変数は、次のような場合に使用できます。

- コマンド スクリプト
- ファイル名

変数の定義内で、別の変数を参照することはできません。

定義済みの変数である **TIMESTAMP** を使用して、時刻を挿入できます。**TIMESTAMP** CLI 変数は、変更することも削除することもできません。

CLI 変数の定義を変更するには、その変数を事前に削除する必要があります。

例 次に、CLI 変数を定義する例を示します。

```
n1000v# cli var name testinterface interface 2/3
```

次に、TIMESTAMP 変数を参照する例を示します。

```
n1000v# copy running-config > bootflash:run-config-$(TIMESTAMP).cnfg
```

次に、CLI 変数を削除する例を示します。

```
n1000v# cli no var name testinterface interface 2/3
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show cli variables</code>	CLI 変数を表示します。

clock set

手動でクロックを設定するには、**clock set** コマンドを使用します。

clock set *time day month year*

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>time</i>	時刻。フォーマットは、 <i>HH:MM:SS</i> です。
	<i>day</i>	日。指定できる範囲は 1 ~ 31 です。
	<i>month</i>	月。値は、 January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November および December です。
	<i>year</i>	年。有効な範囲は 2000 ~ 2030 です。

デフォルト なし

コマンドモード 任意

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、使用しているデバイスを、NTP などの外部クロック ソースと同期できない場合に使用します。

例 次に、手動でクロックを設定する例を示します。

```
n1000v# clock set 9:00:00 1 June 2008
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show clock	クロックの時刻を表示します。

clock summer-time

サマータイム（夏時間）のオフセットを設定するには、**clock summer-time** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock summer-time *zone-name start-week start-day start-month start-time end-week end-day end-month end-time offset-minutes*

no clock summer-time

構文の説明

<i>zone-name</i>	タイムゾーンの文字列。タイムゾーン文字列は 3 文字の文字列です。
<i>start-week</i>	サマータイム オフセットを開始する週。指定できる範囲は 1 ~ 5 です。
<i>start-day</i>	サマータイム オフセットを開始する曜日。有効な値は、 Monday 、 Tuesday 、 Wednesday 、 Thursday 、 Friday 、 Saturday または Sunday です。
<i>start-month</i>	サマータイム オフセットを開始する月。有効な値は、 January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November および December です。
<i>start-time</i>	サマータイム オフセットを開始する時刻。フォーマットは、 <i>hh:mm</i> です。
<i>end-week</i>	サマータイム オフセットを終了する週。指定できる範囲は 1 ~ 5 です。
<i>end-day</i>	サマータイム オフセットを終了する曜日。有効な値は、 Monday 、 Tuesday 、 Wednesday 、 Thursday 、 Friday 、 Saturday または Sunday です。
<i>end-month</i>	サマータイム オフセットを終了する月。有効な値は、 January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November および December です。
<i>end-time</i>	サマータイム オフセットを終了する時刻。フォーマットは、 <i>hh:mm</i> です。
<i>offset-minutes</i>	分単位でのクロックのオフセット。有効な範囲は 1 ~ 1440 です。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、サマータイムまたは夏時間のオフセットを設定する例を示します。

```
n1000v# configure terminal
n1000v(config)# clock summer-time PDT 1 Sunday March 02:00 1 Sunday November 02:00 60
```

次に、サマータイムのオフセットを解除する例を示します。

```
n1000v# configure terminal  
n1000v(config)# no clock summer-time
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	クロックのサマータイム オフセット設定を表示します。

clock timezone

Coordinated Universal Time (UTC; 協定世界時) からのタイムゾーン オフセットを設定するには、**clock timezone** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock timezone *zone-name* *offset-hours* *offset-minutes*

no clock timezone

構文の説明

<i>zone-name</i>	ゾーン名。ゾーン名は、タイムゾーンの略語 (PST、EST など) である 3 文字の文字列です。
<i>offset-hours</i>	UTC からのオフセット時間数。有効な範囲は -23 ~ 23 です。
<i>offset-minutes</i>	UTC からのオフセット分数。有効な範囲は 0 ~ 59 です。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、UTC からのタイムゾーンオフセットを設定する例を示します。

```
n1000v# clock timezone EST 5 0
```

次に、時間帯のオフセットを削除する例を示します。

```
n1000v# no clock timezone
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	クロックの時刻を表示します。

collect counter

フロー内のバイト数またはパケット数を非キー フィールドとして設定し、確認されたバイト数またはパケット数を Flexible NetFlow フロー レコード用に収集するには、**collect counter** コマンドを使用します。カウンタをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

collect counter {bytes [long] | packets [long]}

no collect counter {bytes [long] | packets [long]}

構文の説明

bytes	フローで確認されるバイト数またはパケット数を非キー フィールドとして設定し、フローから合計バイト数を収集します。
long	(任意) 64 ビット カウンタを使用して、フローから合計バイト数を収集します。
packets	フローで確認されるバイト数を非キー フィールドとして設定し、フローから合計パケット数を収集します。

コマンドデフォルト

このコマンドはデフォルトではディセーブルになっています。

コマンドモード

フロー レコード コンフィギュレーション (config-flow-record)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、フローからの合計バイト数を非キー フィールドとして収集する例を示します。

```
n1000v(config)# flow record FLOW-RECORD-1
n1000v(config-flow-record)# collect counter bytes
```

次に、64 ビット カウンタを使用して、フローからの合計バイト数を非キー フィールドとして収集する例を示します。

```
n1000v(config)# flow record FLOW-RECORD-1
n1000v(config-flow-record)# collect counter bytes long
```

次に、フローからの合計パケット数を非キー フィールドとして収集する例を示します。

```
n1000v(config)# flow record FLOW-RECORD-1
n1000v(config-flow-record)# collect counter packets
```

次に、64 ビット カウンタを使用して、フローからの合計パケット数を非キー フィールドとして収集する例を示します。

```
n1000v(config)# flow record FLOW-RECORD-1
n1000v(config-flow-record)# collect counter packets long
```

関連コマンド

コマンド	説明
collect counter	カウンタを非キー フィールドとして設定し、カウンタの値を収集します。
flow record	フロー レコードを作成します。
show flow record	フロー レコードのステータスと統計情報を表示します。

collect timestamp sys-uptime

NetFlow フロー レコード用に TIMESTAMP SYS-UPTIME を収集するには、**collect timestamp sys-uptime** コマンドを使用します。収集をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect timestamp sys-uptime {first | last}
```

```
no collect timestamp sys-uptime {first | last}
```

構文の説明

first	フローの最初のパケットが確認されたときの sys-uptime を非キー フィールドとして設定し、フローの最初のパケットが確認されたときの sys-uptime に基づいてタイムスタンプを収集します。
last	フローの最後のパケットが確認されたときの sys-uptime を非キー フィールドとして設定し、フローの一番最後のパケットが確認されたときの sys-uptime に基づいてタイムスタンプを収集します。

コマンド デフォルト

このコマンドはデフォルトではディセーブルになっています。

コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション (config-flow-record)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、フローの最初のパケットが確認されたときの **sys-uptime** の収集をイネーブルにする例を示します。

```
n1000v(config)# flow record FLOW-RECORD-1
n1000v(config-flow-record)# collect timestamp sys-uptime first
```

次に、フローの最後のパケットが確認されたときの **sys-uptime** の収集をイネーブルにする例を示します。

```
n1000v(config)# flow record FLOW-RECORD-1
n1000v(config-flow-record)# collect timestamp sys-uptime last
```

関連コマンド

コマンド	説明
flow record	フロー レコードを作成します。
show flow record	フロー レコードのステータスと統計情報を表示します。

collect transport tcp flags

NetFlow フロー レコード用に伝送制御プロトコル (TCP) フラグを収集するには、**collect transport tcp flags** コマンドを使用します。収集をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

collect transport tcp flags

no collect transport tcp flags

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

このコマンドはデフォルトではディセーブルになっています。

コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション (config-flow-record)

サポートされるユーザーロール

ネットワーク 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、TCP フラグを収集する例を示します。

```
n1000v(config)# flow record FLOW-RECORD-1
n1000v(config-flow-record)# collect transport tcp flags
```

関連コマンド

コマンド	説明
flow record	フロー レコードを作成します。
show flow record	フロー レコードのステータスと統計情報を表示します。

configure terminal

CLI グローバル コンフィギュレーション モードのコンフィギュレーション コマンドにアクセスするには、**configure terminal** コマンドを使用します。

configure terminal

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

グローバル コンフィギュレーション モードで行った設定の変更は、実行コンフィギュレーション ファイルに保存されます。これらの変更がリブートおよび再起動後にも維持されるように永続的に保存するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用してスタートアップ コンフィギュレーション ファイルにコピーする必要があります。

例

次に、CLI グローバル コンフィギュレーション モードのコンフィギュレーション コマンドにアクセスする例を示します。

```
n1000v# configure terminal
n1000v(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
where	現在のコンフィギュレーション モードのコンテキストが表示されます。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。
copy run start	リブート後に永続的な実行コンフィギュレーションを保存し、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーして再起動します。

connect

vCenter との接続を開始するには、**connect** コマンドを使用します。vCenter との接続を切断するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

connect

no connect

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

no connect

コマンドモード

SVS 接続コンフィギュレーション (config-svs-conn)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

vCenter への接続時に、その接続に対してユーザ名とパスワードが設定されていない場合は、入力を求められます。

一度にアクティブにできる接続は 1 つだけです。以前に定義された接続がアップしている場合は、エラーメッセージが表示され、**no connect** を入力して以前の接続を閉じるまで、**connect** コマンドは拒否されます。

例

次に、vCenter に接続する例を示します。

```
n1000v(config#) svs connection vcWest
n1000v(config-svs-conn#) protocol vmware-vim
n1000v(config-svs-conn#) remote hostname vcMain
n1000v(config-svs-conn#) vmware dvs datacenter-name HamiltonDC
n1000v(config-svs-conn#) connect
```

次に、vCenter との接続を切断する例を示します。

```
n1000v(config#) svs connection vcWest
n1000v(config-svs-conn#) no connect
```

関連コマンド

コマンド	説明
show svs connections	現在の Cisco Nexus 1000V への接続を表示します。

control vlan

制御 VLAN を Cisco Nexus 1000V ドメインに割り当てるには、**control vlan** コマンドを使用します。制御 VLAN を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

control vlan *number*

no control vlan

構文の説明	<i>number</i>	制御 VLAN 番号を指定します。
-------	---------------	-------------------

デフォルト	なし
-------	----

コマンドモード	SVS ドメイン コンフィギュレーション (config-svs-domain)
---------	--

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者
---------------	-----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	<p>新規に作成した VLAN は、レイヤ 2 ポートが割り当てられるまでは未使用の状態になります。</p> <p>内部的に割り当てられた VLAN に割り当て済みの VLAN ID を入力した場合、エラーメッセージが返されます。</p>
------------	---

例	次に、制御 VLAN 70 をドメイン ID 32 に設定する例を示します。
---	--

```
n1000v# config t
n1000v(config)# svs-domain
n1000v(config-svs-domain)# domain id 32
n1000v(config-svs-domain)# control vlan 70
n1000v(config-svs-domain)#
```

次に、制御 VLAN 70 をドメイン ID 32 から削除する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# svs-domain
n1000v(config-svs-domain)# domain id 32
n1000v(config-svs-domain)# no control vlan 70
n1000v(config-svs-domain)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show vlan-id	指定した VLAN の設定を表示します。
svs-domain	ドメインを作成し、CLI SVS ドメイン コンフィギュレーション モードを開始します。
domain id	ドメイン ID をドメインに割り当てます。
packet vlan	パケット VLAN をドメインに割り当てます。
show svs-domain	ドメイン コンフィギュレーションを表示します。

copy

コピー元からコピー先へとファイルをコピーするには、**copy** コマンドを使用します。

copy *source-url destination-url*

構文の説明

<i>source-url</i>	コピーされる元のファイルまたはディレクトリの場所の URL（または変数）。ファイルがダウンロードされるか、アップロードされるかに応じて、コピー元がローカルの場合とリモートの場合があります。
<i>destination-url</i>	コピーしたファイルまたはディレクトリのコピー先 URL（または変数）。ファイルがダウンロードされるか、アップロードされるかに応じて、コピー先がローカルの場合とリモートの場合があります。

コピー元とコピー先の URL の形式は、ファイルまたはディレクトリの場所によって異なります。Cisco NX-OS ファイル システムの構文 (*filesystem:[/directory][/filename]*) に従ったディレクトリまたはファイル名の CLI 変数を入力できます。

次の表は、ファイル システムのタイプごとの URL プレフィックス キーワードのリストです。URL プレフィックス キーワードを指定しない場合、デバイスは現在のディレクトリでファイルを検索します。

表 1 に、ブートフラッシュおよび書き込み可能なリモート ストレージ ファイル システムの URL プレフィックス キーワードの一覧を示します。

表 1 ストレージ ファイル システムの URL プレフィックス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
bootflash: <i>[/module/]</i>	ブート フラッシュ メモリのコピー元またはコピー先の URL。 <i>module</i> 引数の値は、 sup-active 、 sup-local 、 sup-remote 、または sup-standby です。
ftp:	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 ftp: <i>[/server][/path]/filename</i>
scp:	Secure Shell (SSH; セキュア シェル) をサポートし、Secure Copy Protocol (SCP) を使用してファイルのコピーを受け入れるネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 scp: <i>[/[username@]server][/path]/filename</i>
sftp:	SSH FTP (SFTP) ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 sftp: <i>[/[username@]server][/path]/filename</i>
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 tftp: <i>[/server[:port]][/path]/filename</i>

表 2 は、書き込み不可のファイル システムの URL プレフィックス キーワードのリストです。

表 2 特殊ファイル システムの URL プレフィックス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
core:	コア ファイルのローカル メモリ。コア ファイルを core: ファイル システムからコピーできます。
debug:	デバッグ ファイルのローカル メモリ。デバッグ ファイルを debug: ファイル システムからコピーできます。
log:	ログ ファイルのローカル メモリ。ログ ファイルを log: ファイル システムからコピーできます。
system:	ローカル システム メモリ。実行コンフィギュレーションを system: ファイル システムとの間でコピーできます。 system: ファイル システムは、 running-config ファイルをコマンドで参照する場合、任意となります。
volatile:	ローカル揮発性メモリ。ファイルを volatile: ファイル システムとの間でコピーできます。 volatile: メモリ内のすべてのファイルは、物理デバイスのリロード時に失われます。

デフォルト

コピー先のファイルのデフォルト名は、コピー元のファイル名です。

コマンド モード

任意

サポートされるユーザ ロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コピー プロセス全体は、ネットワーク条件やファイルのサイズに応じて数分間かかる場合があります。また、それぞれのプロトコルおよびネットワークによっても異なります。

ファイルシステムの URL プレフィックス キーワード (**bootflash** など) の後にはコロン (:) が必要です。

ftp:、**scp:**、**sftp:**、および **tftp:** の URL 構文では、IP アドレスまたはホスト名でサーバを表します。

例

次に、同じディレクトリ内にファイルをコピーする例を示します。

```
n1000v# copy file1 file2
```

次に、別のディレクトリにファイルをコピーする例を示します。

```
n1000v# copy file1 my_files:file2
```

次に、別のスーパーバイザ モジュールにファイルをコピーする例を示します。

```
n1000v# copy file1 bootflash://sup-remote/file1.bak
```

次に、リモート サーバからファイルをコピーする例を示します。

```
n1000v# copy scp://10.10.1.1/image-file.bin bootflash:image-file.bin
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
cli var name	セッションの CLI 変数が設定されます。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
move	ファイルを移動します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

copy running-config startup-config

実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーするには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。

copy running-config startup-config

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

実行コンフィギュレーションでの設定の変更を永続的メモリ内のスタートアップ コンフィギュレーションに保存するには、このコマンドを使用します。デバイスのリロードまたは切り替えが発生すると、保存済みの設定が適用されます。

例

次に、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存する例を示します。

```
n1000v# copy running-config startup-config
[#####] 100%
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。
show running-config diff	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示します。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。
write erase	持続性メモリ内のスタートアップ コンフィギュレーションが消去されます。